

<連載(114)>

新造クルーズ客船 「ぱしふいっくびいなす」登場



大阪府立大学海洋システム工学科教授
池田良穂

日本の 新造クルーズ客船が久々に登場した。船名は「ぱしふいっくびいなす」。運航するのは大阪に本社のある日本クルーズ客船である。同社は、改造クルーズ客船「ニューゆうとぴあ」(12,378総トン)と、1990年に新造した「おりえんとびいなす」(21,906総トン)の2隻を運航していたが、「ぱしふいっくびいなす」を「ニューゆうとぴあ」の代替船として石川島播磨重工業で建造し、同船はこの4月に華々しくデビューした。

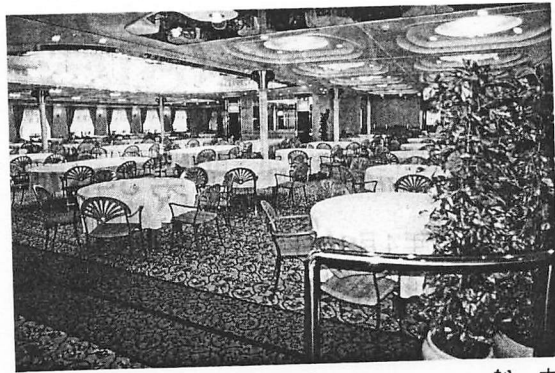
総トン数は、26,000総トン、旅客定員は720名。大きさとしては、「飛鳥」に次いで日本のクルーズ客船では2番目。720名という旅客定員は日本のクルーズ客船としては最も多い。キャビン(客船の客室のこと)は全部で266室。「おりえんとびいなす」がチャーター船として使用されることが多いため4人部屋が多かったのに対し、2人部屋の数が大きく増えたのが大きな特徴である。これからは夫婦二人で旅行を楽しむ層が着実に増加して行くことを見越した造りになっている。

4月上旬 に、神戸で同船を見学することができた。2人部屋を基準とした快適なキャビン、広くて明るい公室などを見てまわった。メインラウンジ、スカイラウンジ、ピアノサロンなど公室も豊富。しかも、今までの日本のクルーズ客船の中では、内部インテリアデザインでもピカ一的存在と言える。身体障害者専用のキャビンも設けられており、バリアフリーの思想が生かされている。

見学している間に、この船にはぜひとも早く乗ってみたいという思いがふつふつと沸き起こってきた。しかし、同船は処女航海で40日余りの東南アジアクルーズに出かけ、その後も団体のチャータークルーズに忙しく、夏までの間に個人客が乗れるクルーズの数はそう多くはない。その中から、6月に名古屋から東京までの1泊クルーズがあることをパンフレットの中に見つけた。このクルーズは、6月中旬の日曜日に名古屋を出て、翌日の屋には東京に着くという短いクルーズである。月曜日に1日だけ休暇をとるだけで乗船でき



ぱしふいっくびいなす



船内

るので、サラリーマンには有り難い。しかも、安いキャビンを3人使用とすれば、1人17,400円、2人使用でも2万円という超格安のクルーズ料金である。これはまごまごしていると予約殺到で乗れないということにもなりかねない。この船であれば、きっと船ファンの仲間でも乗りたい人は多いに違いない。気持はあせりだし、日本クルーズ客船の子会社であるヴィーナストラベルに電話を入れて、10部屋30人分の仮予約を入れることができた。

そして、筆者の主催する日本内航客船資料編纂会の会員120名余と、ミニコミ誌「船と港」の定期購読者250名余に、このクルーズの案内を出したところ、あっという間に仮予約分は満席になってしまった。この筆者の主催する2つの船舶愛好者の会には、昔からの船旅ファンが多い。米国のアメリカン・プレジデント・ラインや香港のOOLの客船、あるいは商船三井の「あるぜんちな丸」や「ぶらじる丸」での船旅をした経験者も多い。そうした昔からの船旅ファンが、最近はあまり日

本のクルーズ客船に乗っていないようだ。それは日本のクルーズ客船の料金がやや高いということにも1つの原因がある。1泊だけの短いクルーズとはいえ、話題の新造船に2万円を切る料金で乗れるとなれば、これはリーズナブルを通りこして、超お買い得と言える。そんなわけで、予約殺到となったようだ。筆者のグループだけでなく、他の船旅愛好者の会でも乗船を企画しているようなので、この航海では結構の数の船ファンが、新造船「ぱしふいっくびいなす」船上での船談議に盛り上がりそうと今から楽しみにしている。

同船は、今年の夏の間には、新潟～函館間、函館～東京間、神戸～東京間の1泊2日クルーズを行う他、9月1日に東京を出発する9泊10日の北海道クルーズがなかなか魅力的である。時間のある方は、ぜひこのクルーズをしてみることをお勧めしたい。

詳しいスケジュールや料金については、ヴィーナストラベル (Tel.06-348-0571) にお問い合わせ頂きたい。